

## 丸森町立館矢間小学校

### I 学校所在地域の災害特性および地域連携に係る現状等

#### (1) 地域特性

- ・阿武隈川の浸水想定区域内であり、想定最大規模の場合 0.5m～3m 程度の浸水、浸水継続時間は 24 時間未満、学校と阿武隈川の間は氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域である。立地する館矢間地区（9 地区）のほとんどは、浸水域であり、最大浸水深は 10m、浸水継続時間が 3 日間の部分もある。小学校は、洪水時の指定避難場所ではある。しかし、館矢間地区の住民をすべて受け入れられるほどの床面積は無い。そのため、地区の住民の避難場所は、小学校を含めて 5 カ所に分散することになる。
- ・令和 4 年度学校再編による学区地域の広域化にともない、学区内に土砂災害危険区域が増加する。また、主要道路の浸水危険性が高く、阿武隈川増水時には、自宅に帰れない児童が多数発生する。令和 3 年度町ハザードマップが更新された。スクールバスも 3 路線運行している。

#### (2) 地域連携

館矢間まちづくりセンター

区長との面談、避難場所と避難所運営について地域住民との話合い（R3.6 月実施）

参加者：町防災部局、館矢間地区連絡協議会会長、区長会長、館小校長、館小主幹

内容：地区別避難場所について、広域避難、地区別、高齢者及び配慮者

館小避難場所の確認（体育館、多目的室、各教室、階段、屋上等）、車椅子対応

#### (3) 課題

- ・学区の広域に伴う様々な災害への対応
- ・児童を保護者へ安全に引き渡す方法、警報に伴う学校の判断について

### II 取組状況

#### 1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

##### (1) 学校防災マニュアルの見直し

- ・マルチハザードによる対応（地震、火災、水害等への対応）
- ・学校再編の広域化に伴う学区内の危険箇所の把握の実施、スクールバス運行マニュアル整備

##### (2) 地震想定避難訓練：R3.6. R4.6.

- ・震度 6 強を想定しての第一次避難場所への避難訓練を実施。3 階からも短時間で落ち着いて避難することができた。地区別人数確認も実施し、引渡し訓練時にも対応できるよう訓練した。ドローンにて空撮を行い、訓練後に職員で成果と課題について話し合った。

##### (3) 引き渡し訓練：R3.7 R4.6

- ・地震発生後に保護者への引き渡しを行った。2 時間以内にほぼ全ての児童を安全に引き渡すことができた。令和 4 年度については、丸森中、丸森小との 3 校合同引き渡し訓練を実施することができた。

##### (4) 丸森町防災主任者会：R3.7.12 12.8

- ・令和 4 年度丸森町内再編のため危機管理マニュアルの見直しを図った。特に危険個所の確認、スクールバスの運行に関する内容について共有することができた。「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」実践協力校の取組について発表し、町内で共有化を図った。

(5) 火災想定避難訓練：R3.11 R4.11

- ・防火シャッターを作動し、防火扉を通り避難する訓練を実施した。出火場所を毎年変えながらより実践的になるよう工夫している。角田消防署丸森出張所職員指導のもと通報訓練、水消火器による消火訓練も行った。「未来への絆」「安全の本」を事前・事後指導に効果的に使用している。家庭で火災が発生した時の対応についても学年の発達段階に応じて指導している。

(6) 丸森町総合防災訓練実施：R4.7/24

避難所開設訓練：段ボールベッド、パーテーション設営訓練  
館小会場で訓練場所：体育館、2階多目的教室

(7) 全校縦割り班での地震想定避難訓練の実施（計3回）R4.10/1

- ・丸森未来防災フェスタ 6年児童計画による縦割り班での避難訓練を実施。計画と訓練を繰り返し行い、児童が主体的に取り組んだ。訓練後に出された課題について解決できるよう実施することができた。

(6) 課題

- ・集中豪雨などの突発災害時における阿武隈川の決壊等を想定した避難訓練の実施の検討。児童を上階への避難及び職員室の重要物品の退避、避難者対応、保護者への連絡など

## 2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 震災遺構「中浜小」見学 R3 8/3 R4 8/2

- ・令和3年度は、語り部から震災当時の話を聞き、中浜小を見学することができた。学校防災アドバイザー、町防災部局、町教委、館矢間地区連絡協議会（会長、事務長、区長）が参加しグループ別に視察を行った。令和4年度には、石巻震災遺構大川小、門脇小へ25名で見学会を実施した。大張、耕野地区連絡協議会の方にも参加いただき大川小では、語り部の話を聞きながら震災当時の様子について研修を深めることができた。

(2) 防災だよりの発行 2021 2022

- ・館矢間地区住民、館矢間小保護者向けに防災だよりを発行した。地域連携型防災実践協力校としての取組について、防災研究授業、震災遺構研修の様子等について学区内に広く発信した。令和4年度は、館矢間・大張・耕野地区全戸へ防災だより2号を配布した。

(3) 防災教育のページ 2021 7月開設

- ・2年間の防災教育実践についてホームページで紹介している。防災研究授業、防災研修会（外部講師による研修会）指導案、防災だより、防災教育に関するリンク等。

(3) 丸森未来防災フェスタ：R3 12/3 参加対象：地域住民（区長、町防災部局、保護者等）

- ・5、6年児童が地域へ発信した。実践研究1年目の取組についてパネルに掲示して展示した。地域住民と連携してのフェスタを行った。
- ・丸森未来防災フェスタ2022：R4 11/11 助言者：国土交通省宮城南部復興事務所、学校防災アドバイザー、丸森町役場建設課、丸森町役場消防防災班  
5・6年児童が14グループに分かれて防災、減災についてのテーマごとに地域へ発表した。発表後には、助言者の皆様からアドバイスをいただきました。
- 参加者から（地域の方）「この機会に地域の特色、災害対策を十分理解されたと思います。実践してください。継続することが大事です。」
- 助言者：「自分の地域を防災面で学習することで郷土への思いも深まるものと考えます。今後も館小の特色として続けていただきたい。」

### 3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

#### (1) 校内研修 R3 ～ R4

##### ①校内ワークショップ1回目：R3 5

防災授業5年の事後検討会を行い、研究の方向性について全職員で確認した。  
館小児童のよいところ、防災研究で実践できそうなことについて話し合いを持った。

##### ②講話1回：R3 6

講師：学校防災アドバイザー東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛様  
丸森町館矢間地区の水害時の地域危険性等の地域特性について講話をしていただいた。

##### ③震災遺構「中浜小見学」：R3 8

語り部ガイドから震災遺構について詳しく説明いただきながら見学した。震災遺構の防災学習の下見も兼ねて実施することができた。

##### ④校内ワークショップ2回目：R3 9

避難訓練についての成果と課題についてグループに分かれタブレット端末を活用して話し合いを行った。

##### ⑤校内ワークショップ3回目：R3 10

東日本台風で被災した職員からの話を聞き、感じたことや当時の自分の状況について発表し合った。日頃から防災意識を持つことの大切さを共有することができた。

##### ⑥講話2回目：R3 11

講師：学校防災アドバイザー 東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛様  
防災授業に1年についての事後検討会を行い、研究内容について共有することができた。

##### ⑦防災研修会：R4 6/15

講師：国土交通省東北地方整備局宮城南部復興事務所 所長様  
講話：令和元年度東日本台風災害の教訓

##### ⑧防災研修会：R4 6/30

講師：学校防災アドバイザー 宮城教育大学防災教育研修機構 講師 林田由那様  
講話：避難訓練チェックリスト

##### ⑨防災研修会：R4 7/13

講師：学校防災アドバイザー 東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛様  
講話：東日本台風と被災地での対応

#### (2) 授業実践 R3 ～ R4

##### ①5年防災授業 「館っ子レンジャーズ ～丸森未来防災フェスタを開こう～」

ねらい：台風19号について、詳しく知りたいことを考えることができる。  
自分の課題について出し合い、クラス全体で共有していった。

##### ②6年防災授業 「館っ子防衛隊Ⅱ ～わたしたちにできること～」

ねらい：丸森未来防災フェスタに向けて、グループの学習テーマを設定しよう。  
被害、避難・避難所、ボランティアの3つから調べていく課題について考えを交流した。

##### ③1年防災授業 「学校内にある命を守るものをさがそう」

ねらい：学校内にある自分たちの命を守る物を知り、命を守ろうという気持ちを高める。  
グループに分かれて校内を探検し安全マップにまとめた。クイズ形式で分かりやすく防災主任からの説明を聞いた。校内にある命を守るための物について学ぶことができた。

##### ④4年防災授業 「東日本大震災からの復旧・復興」

ねらい：東日本大震災時の様子、石巻の復興の様子から気づいたことを伝える。  
石巻市の震災当時、復興の様子から感じたことや気づいたことを考え発表することができた。  
復旧、復興の意味についても考えることができた。

##### ⑤1年防災授業 「校内での危険について」T2として防災主任。

##### ⑥2年防災授業 「防災倉庫の見学」校内防災倉庫、館矢間まちづくりセンター防災倉庫見学。

##### ⑦3年防災授業 「災害時に必要な物」学校防災アドバイザーがゲストティチャー

##### ⑧6年防災授業 「みんなが安全に避難できる方法を考えよう」全校での避難訓練の計画

## 4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

### (1) 震災遺構中浜小学校見学

#### ① R3 10/1 参加児童：4年，5年，6年

台風の影響で雨模様ではあったが，児童は，語り部ガイドの話を真剣に聞き見学していた。事前にワークブックを活用して学んでいたため，避難等の防災意識を高めることができた。

#### ②ワークブックの活用 「震災遺構 中浜小学校 ワークブック」(宮城県山元町作成)

事前指導でワークブックを活用して指導し，見学時には見学ポイントを示した。見学後にはワークブックを基にして感じたことをまとめることができた。

#### ③見学を終えて(児童感想から)

「奇跡は必ず起きるわけではないのでこれからは津波を甘くみないでいきます。常日頃から避難の練習をして地震が来たらすぐに自分を守る行動をしたいです。」(5年児童)

「学んだことは自分の命を大切にしようということです。「自分の命は自分で守る」その言葉がとても印象深く自分の命を大切にしないと学校に戻って思いました。」(5年児童)

「波の強さ，命の大切さ，今生きていることが奇跡という言葉。将来の人たちに東日本大震災や台風19号のことを伝えていきたいです。」(6年児童)

#### ④ R4 7/6 参加児童：4年

・オンラインで語り部ガイドと事前学習に取り組んでから震災遺構見学を行った。震災当時の様子について語り部ガイドから詳しく説明されたことで津波災害のおそろしさを実感することができた。令和5年度の丸森未来防災フェスタ2023(仮称)で見学して学んだことを提案できるように取り組ませていきたい。今後も震災遺構中浜小見学は継続していく。

#### ④丸森町内川堤防見学：R4 7/7 参加児童：5年

・国土交通省東北地方整備局南部復興事務所，丸森町役場建設課の方から震災現場で説明を聞いた。見学後に出された疑問や課題を自分で調べる探求活動に取り組んだ。

## III 取組を通じた成果と課題

### 1 成果

- ・災害発生時における地域と学校の避難対応については，概ね共有を図ることはできた。館矢間地区では，水害に対する避難の在り方が最重要課題であり取組は的を射ている。
- ・災害発生時にどのような避難対応をすればよいか授業実践，ワークショップ，震災遺構見学を通して理解が深まった。
- ・地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施として丸森未来防災フェスタ2023:児童からの提案を地域の方に向け発表することを継続する
- ・大張，耕野，館矢間地区にある災害特性について概ね児童は，理解することはできた。また災害発生時に避難する場所については，3年以上の児童は，概ね理解している。
- ・学校全体で地域との防災教育を考えていこうという意識が高まってきている。
- ・自分たちで課題を見つけ「丸森未来防災フェスタ」で地域へ提案することができた。
- ・外部講師(宮城南部復興事務所，丸森町消防防災)による研修会を定期的実施する。
- ・被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施として震災遺構中浜小学校へは，4年生が毎年見学に行くようにする。

### 2 課題

- ・2年間の実践について継続することが最大の課題である。
- ・防災に関する体験活動を発達段階に応じて設定することは難しい。